

## 【別紙 2】

### 審査の結果の要旨

氏名 渡辺 悦子

本研究は一市の全保育施設に通園する 3～6 歳の全幼児を対象に、幼児期の重要な健康問題の 1 つである過体重に影響を与える幼児の日常生活における生活行動と、生活環境として最も身近である家族環境について検証し、下記の結果を得ている。

1. 過体重に区分される幼児の割合は男児より女児で高く、年齢別では 3～5 歳児に比べ 6 歳児で高くなっていたことから、過体重の割合は幼児の性別、年齢により異なることが示された。
2. 幼児の日常生活における生活行動は相互に関連し、テレビ等視聴時間が長いことは就寝時刻が遅く夜の睡眠時間が短いことと、また、就寝時刻が遅いことは朝食を欠食することと関連していた。これに対し、活動的な時間である外遊び時間と不活動時間であるテレビ等視聴時間との間に関連はみられなかったことが示された。
3. 幼児の生活行動として食行動、身体活動、睡眠行動を網羅し、過体重に与える影響を検討した結果、幼児のテレビ等視聴時間が 1 日 2 時間未満に対し 2 時間以上であることは、統計的な有意差はみられなかったものの、過体重のリスクを最も高める幼児の生活行動であることが明らかとなった。
4. 家族環境として、同居家族の状況がひとり親および母が有業である世帯は祖父母が同居する割合が高くなっていた。母が有業である世帯は家族の生活行動では 1 日の食事摂取が不規則であることと関連するのに対し、祖父母が同居する世帯は 1 日の食事摂取が規則的であることと関連していたことから、同居家族の状況により家族の生活行動は異なっていることが示された。
5. 家族環境が幼児の過体重に与える影響を検討した結果、同居家族の状況は過体重と有意な関連はみられず、これに家族の生活行動を加えて調整すると関連はさらに弱くなっていた。これに対し、家族の生活行動は同居家族の状況を調整してもなお過体重と有意な関連がみられたことから、同居家族の状況は家族の生活行動を通して過体重に影響していることが明らかとなった。

6. 家族環境では、家族の生活行動として 1 日の食事摂取が規則的であることに對し不規則であることが、他の家族環境とは独立して過体重のリスクを高めることが明らかとなった。

以上、本論文は幼児期の過体重には、幼児自身の生活行動だけでなく、生活を共にする家族環境も影響を与えていること、家族環境は家族の生活行動を通して幼児の過体重に影響していることを明らかにした。家族環境に同居家族の状況だけでなく家族の生活行動を含め、過体重との関連を検討した研究は非常に少ない。本研究の貢献は重要であり、学位の授与に値するものと考えられる。